

今回は、弊社にとって最も多くかつ重要なユーザー層となっている食品業界を展望します。

食品産業の課題と期待

先進国人口の高齢化や、足元では欧州通貨統合の危機など、経済環境に前例のない変化が起きていながら、指標の動きの中にパターンを求めて参考にしても、先のことが読みづらくなっています。経済活動の本質に立ち返って、個々の産業や企業の動きをみてみるのが大事かと思えます。

【海外市場の成長】

アジアを中心として拡大する国外市場に販路を求める動きが絶えません。人口動態予測や為替の動向をみると、この傾向は長期的に変わらないように思えます。（為替の先行きは専門家の意見が分かれているようで、この点は留保が必要でしょう。また、ここにかけて中国市場のリスクが顕在化し、気になるところではありま

す）

こうしたなかで、包装機械の一大ユーザーである食品業界が抱えるテーマは何でしょうか。

【安心、安全の要望が強い】

食品といっても、いろいろな種類、切り口があつて、ひと括りにはできないのですが、日本経済研究所の専門家の意見によれば、例えば、海外でも人気の日本食を輸出していくには、水産・食肉等の衛生ルールを定めたHACCP対応を進めるための設備導入や、ブランド化を後押しする地理表示の推進などが課題で、事業者の体質強化を通じた相応の投資が求められるとのことです。

【課題あるところに市場は生まれる】

ところで、企業の利益追求が支持されるのは、満たされてはまた新たに次々と生まれる消費者のニーズに対応して、またあるときはそれを先取りして、新しい商品やサービスを開発・提供

し、充足させる役割を果たすからでしょう。

国内外問わず、おいしい日本食を食べたい、安心して食べたい、という要望が高まっているとすれば、それに応えていくことは、食味の追求のみならず、企業活動の本義と言えるのではないのでしょうか。

審査(財務)部長

古泉忠宏

包装リースだより 22

株式会社日本包装リースは、日本包装機械工業会の会員が出資して設立した包装機械・関連機械の専門リース会社です

お問合せ先：営業企画室 電話03-6222-2261 <http://www.jpml.jp/>